

辺野古移設は普天間基地の危険から住民を守るため

基地問題終結かけた沖縄知事選始まる！

2030年普天間基地返還

集まる「さきま氏」への期待

25日告示の沖縄知事選は元宜野湾市長で保守系の佐喜真(さきま)淳氏(57)と現職で革新勢力が推す玉城デニー氏(62)の事実上の一騎打ちです。

佐喜真氏は、普天間基地機能の辺野古移設を容認し、世界一危険と言われる

普天間基地について、2030年(令和12年)までの返還を掲げました。跡地を国家プロジェクトとして開発することも公約しています。

一方、玉城氏は「政策集」に一言「閉鎖・撤去」と書いていただけで、何の具体策も示していません。

辺野古移設工事反対で

訴訟や国への審査申立てを繰り返すだけの玉城氏が、本気で普天間基地返還を考えているとは思えません。

閉鎖撤去しか言わない

玉城知事の限界

沖縄県のHPでは、政府が試算した辺野古基地建设の総費用9300億円について「高額で不合理」と批判しています。普天間基地を抱える宜野湾市の市民の命は「それよりも安い」というのでしょうか。



【討議資料】



「世界一危険な飛行場」普天間基地 ●は保育園や学校などの教育施設

国境の島を「丸裸に」という玉城知事の平和感覚

中国軍事演習の直後に「自衛隊基地反対」

玉城知事は8月19日、与那国島と石垣で自衛隊基地反対派と懇談しました。翌日の「しんぶん赤旗」によると玉城知事は街頭演説で「配備ありきで強引だ」と批判しましたが、地元首長が訴える有事の避難計画には触れませんでした。

玉城氏は選挙用の政策集に「今こそ沖縄から世界へ平和の発信」を掲げていますが、日本のEEN(排他的経済水域)に5発のミサイルが撃ち込まれたばかりです。

共産主導に変質した

「オール沖縄」の瓦解

玉城氏の支援母体は「オール沖縄」とされていますが、昨年秋季頃から元々保守系の有力経済人や県議が次々に離脱し、もはや共産党主導の革新共闘に変質しています。

翁長雄志知事の死去後に県内ホテル最大手の「かりゆしグループ」が離脱し、昨秋には沖縄経済界をリードする「金秀グループ」が離脱。会長は「翁長丸に乗っていたら、隣に赤

い服を着た人がいた。やっぱり最終目的地までは一緒に乗らないでおこう」と関係者に語っています。

さきま淳氏

SNSの紹介



Twitter
Facebook



沖縄の未来を考える会〈沖みら〉 SNS 「フォロー」「いいね」「リツイート」で情報拡散をお願いします

「全国から

さきま淳

氏 SNSの拡散を！」